

# CMSで サクサク更新 ウェブサイト

ウェブサイト  
イントラネット  
ホームページ

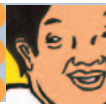


text: 増田"maskin"真樹 illust: 小松恵

## 第3回

## 実践型！知識コミュニティー入門！？ Xoopsで営業部イントラを作ろう(2)

ウェブサイト  
イントラネット  
ホームページ



## スムーズなコラボレーションの舞台に向かって

前回は、ウェブサーバーやSQLデータベースサーバーなどを立ち上げ、CMSを構成するPHP言語やXoops本体のインストールを駆け足で進めたが、無事に立ち上がっただろうか？ 今回からは、高性能なポータルCMSである「Xoops」を使った実践型コミュニティーサイトの構築を進めていく。Xoopsはサイトの構築が簡単なだけでなく、深く突っ込んだことまで管理できる優れたシステムだ。すべてはアイデア次第だから、しっかり計画すれば、単なる情報共有ポータルを超えて、コラボレーションワークに活用できるイントラサイトが作れるぞ！

### 使える社内コミュニティー サイトの設計

Xoopsには、奥が深く幅広い機能がある。取っつきにくい面もあるが、一度慣れてしまえば、後は自由に発想の赴くままサイトを構築できる。だから今回からは機能を1つ1つ紹介しつつ、CMSコミュニティーサイト構築のノウハウも盛り込んでいこうと思う。つまり、どのセクションでも使い方をざっと説明した後は「設計」「構築・実行」「評価」というプロセス、まさしくCMSの醍醐味といえるスタイルで作業を進めようというわけだ。

ではサイトの設計から始めよう。作ろうとしているのは「使える営業部イントラサイト」である。日々営業に明け暮れる私たちにとって一番重要なことは何だろう。

1. 面倒なく使える
2. ホウレンソウ
3. 肩が凝らない

この3つが結構言い当てているような気がする。

図1 今回はここまで作り上げます



「1.面倒なく使える」は、忙しい営業部にとっては必須だ。パソコンの前で独りあれこれ悩むことはタブーである。「2.ホウレンソウ」つまり報告・連絡・相談は、コミュニケーションを活性化するCMSサイトに不可欠な概念だ。これは本誌4月号の特集「コラボレーションワークの環境学」でかなり詳しく語られているが、サイトの設計次第で情報が偏った方向に流れるということを理解しつつ作業を進めてもらいたい。「3.肩が凝らない」は、これまでの部署内イントラには適用できないと思われるが、意外と重要なものである。さまざまな制約や制限があって肩が凝るサイトは、情報のデザインが悪く、自由な発想が生まれにくいのだ。

よし、方針は決まった。それでは必要な機能とコンテンツは何だろう。

- ・部署内ニュース
- ・テーマ別掲示板
- ・意思決定(投票)

情報共有サイトとして考えると、ざっとこんなところだろうか。まだまだ考慮の余地はあるかもしれないが、とりあえず考えつくものからシンプルに組み立てていくほうがベターだ。早速、これらを実際に構築してみよう。

## Xoopsサイトの基本設定をクリアする

Xoopsサイトに管理者でログインしたら「管理メニュー」を開く(図2)。管理メニューの「システム管理」の項目は、大きく「サイト管理」「コンテンツ管理」「ユーザー管理」の3つのグループに分かれる。

管理メニューの内訳

サイト管理.....サイト全体の基本設定  
「一般設定」  
コンテンツ管理.....情報の内容や表示  
「バナー管理」「ブロック管理」「メタタグ/フッター設定」「モジュール管理」  
「顔アイコン設定」  
ユーザー管理.....ユーザーやグループ  
「グループ管理」「禁止用語/アクセス拒否IP設定」「ユーザランキング設定」  
「ユーザ管理」「ユーザ検索」「ユーザ宛メール送信」

まずは一般設定だ(図3)。ここは、20以上の項目にわたってサイトの基本設定をするところだ。半分以上がさわる必要のない項目なので、入力のあるところだ

けをざっと説明していく。

一番上にある「サイト名」を入力すれば、サイトのウィンドウにその名前が表示されるようになる。イントラポータルはブックマークから利用される機会が多いはずだ。短くシンプルな言葉で設定しておこう。

「管理者メールアドレス」を入力しておけば、新規ユーザーが登録されたときなどにメールで通知されるようになる。緊急時の連絡も入るようになるので、一番使用頻度が高いメールアドレスを入力しておこう。携帯のメールを設定するというのも手だが、設定次第ではサイズの大きいメールが届くこともあるので注意が必要だ。

「使用言語」は日本語メインであればもちろん「japanese」を選択する。

「開始モジュール」は、ログインをした際、初めに表示されるモジュールを選択することができる。ただ、現在のところ、使えるモジュールは「ニュース」と「登録ユーザー一覧」くらいなので、とりあえず一番見られる機会の多い「News」を設定しておこう。

「サーバ・タイムゾーン」は、日本国内の営業部内に設置したのであれば東京、大阪、札幌の「GMT+9:00」を選択しておく。「デフォルト・タイムゾーン」も同様に「GMT+9:00」だ。

図2 管理メニュー



図3 サイト一般設定



「デフォルト・サイトテーマ」。Xoopsは、サイトのデザイン(ルック&フィール:色やレイアウト、文字のデザイン)をユーザーが自由に選択できる。しかし、あまり自由を与えてしまうとトラブルやユーザーサポートの手間が増えることが考えられるので、ここではどれか1つ(たとえば「bluely」なんかがスマートで綺麗)を選択し「全てのユーザのテーマを変更する」にチェックを入れよう。また、その下の項目「サイトテーマの選択を許可する」を「いいえ」にすれば、すべてのユーザーに統一したデザインを設定することができる。

「パスワードの最低文字数」は、ユーザーがアカウントを作ったときに設定するパスワードの長さを指定するものだが、外部に公開するならともかく、内部イントラであれば短くしたほうが使い勝手はよくなる。しかし、ファイアウォールなどのネットワーク構成によってはセキュリティ面での対策を考える必要も出てくるので、運用する情報次第では管理者に相談したほうがいいだろう。

「未登録ユーザの投稿を許可しますか?」は、基本的に「いいえ」にして考えたほうがいい。なぜなら同じオフィス内で匿名性が保持された発言がゆるされると、スタッフがお互いに不安を感じ始めるからだ。もし故意でなくても、無記名で発言があったとすれば、「一体誰が?」とよけいな詮索

が生まれることになる。

「新規ユーザ登録の際にメールにて知らせを受け取る」では、誰がメールを受け取るかをグループで指定することができる。たとえば管理者が標準で割り当てられる「webmaster」や、登録ユーザー全員を対象とした「Registered Users」などがある。これは後述していくが、自由にグループを追加していくことができるので、たとえばサポートスタッフというグループを決めて、新しいユーザーが参加したときは何らかのフォローをするといった体制を作ることも可能だ。

最後に「バナー広告を有効にしますか?」だが、イントラだけにこれは「いいえ」にしておきたい。

これ以外の項目は、触れなくても構わないので、そのままにしておこう。

必要な設定をしたら「送信」ボタンを押せば完了である。

### Xoops コンテンツデザイン 入門

一般的な設定が終わった状態のXoopsサイトには、「ニュース」「参加者一覧」などのコンテンツしかないが、ここに「モジュール」といわれる“コンテンツ”を追加するこ

とができる。たとえば、掲示板機能や投票機能などである。早速、「[管理メニュー]の[システム管理]から[モジュール管理]を選択してどんなモジュールがあるのかを見てみよう。

ずらっとたくさんのモジュールが一覧表示されたはずだ(図4)。上の段にはインストール済みのモジュールが並び、下の段には今後インストールできるモジュールが並び、「ヘッダライン」「フォーラム」「ダウンロード」「投票」など、これらのモジュールを自由に追加できる。

モジュールの細かい解説は後回しにするとして、まずは当面の目的である「部署内ニュース」「テーマ別掲示板」「意思決定」を実現するモジュールをインストールしていきたい。該当しそうなモジュールには「投票」と「フォーラム」がある。「オンライン状況」をインストールすれば、メンバーがログインしているかどうかの状況が把握できて便利そうだ。これら各モジュールの「管理」項目のメニューで「インストール」を選択して「送信」ボタンをクリックすれば完了だ。選択したモジュールが、上段のインストール済みリストに登録されて使えるようになる。さっそくサイトがどうなったか見てみよう(図5)。さまざまな“情報コンテンツ”が配置されて賑わようになってきた。

しかしこのままでは雑然さがぬぐえないので、情報コンテンツの配置を編集してみ

図4 モジュール一覧



図5 モジュールがインストールされた状態





よう。再び管理メニューからブロック管理を選択する。

Xoopsのサイト構成は3ペイン型が基本になっている。3ペインというのは、「トップメニュー」「サイドメニュー」「メイン部分」で構成されるサイトの基本レイアウトのことで、Amazonなど多くのサイトで標準として利用されているものだ。「ブロック管理」では、この3ペイン構造をベースにして、「情報コンテナ」の配置を進めていく。

まず、ブロックの数が多し「サイドブロック」から作業を進めよう。1つのモジュールをインストールして表示されるブロックは必ずしも1つとは限らないのだ。たとえば「ニュース」モジュールでは、「本日のトップニュース」や「最新ニュース」などの複数のブロックが並ぶ。

ここで「表示サイド」という項目に注目してほしい。このプルダウンメニューをクリックすると

- 「サイドブロッカー左」
- 「サイドブロッカー右」
- 「中央ブロッカー左」
- 「中央ブロッカー中央」
- 「中央ブロッカー右」

という項目が表示される。これは各ブロックにおいて「サイド」か「中央」のどちらかに振り分けるだけでなく、中央の場合は、右寄せ・左寄せの配置を指定できる。サイドブロックの場合、「左」なら3ペインでいうサイドメニューにアサインされ、「右」なら中央ブロックの右側にさらにもう1つサイドメニューが作られて4ペインとなる。サイドブロックのすべてが「左」なら右側のサイドメニューは表示されない。

それぞれのブロックを自由にレイアウトできるのだが、ここはしっかり計画を立てながら前に進もう。

まず、サイド(左右)と中央のどちらにどのブロックを並べるのかをイメージしよう。ログインや承認など、ユーザーのアカウントや基本操作に関するものをすべて左サイドメニューに集めると操作しやすくなって便利だ。ということで「ユーザ専用ブロック」「ログインブロック」「承認待ちコンテンツブロック」「メインメニューブロック」「フォーラムでの最近の投稿」「サイト情報」

をすべて「サイドブロック 左」にアサインしよう。残りはすべて「サイドブロック 右」にする。

中央ブロックに関しては、レイアウトがちょっと特殊なので注意が必要だ。基本的に「上から下」に情報が流れるのだが、「基本中央ブロック」「ニュースやフォーラムのコンテンツ」という感じで自動的にレイアウトされる仕組みになっている。つまり、中央ブロック内の配置(左・中央・右)の設定は「基本中央ブロック」内だけで適用されるので注意したい。いくらここをいじっても「コンテンツ部分」には変更は及ばないのである。さあ、ひととおりアサインを変更できたら「送信」ボタンを押し、処理が終了したらトップページを見てみよう(図6)。

左側は整理されたイメージで、ずいぶんわかりやすくなったが「承認待ちコンテンツ」が「メインメニュー」の上にあるのはおかしい。また、右側サイドメニューでは、関係のないブロックが連続して並んでいたり、「情報デザイン(情報のまとめ、ユーザーインターフェイス上のプロット(文脈))」がおかしい。そもそもたくさんの情報

が溢れてしまっているの、バランスを見つつ一部を左サイドに移動する必要もありそうだ。

こういった問題は「ブロック管理」に戻って「並び順」を調整することで解決できる。並び順というのは、ブロックが上から順番にどう並ぶのかを指定する項目で、実際に数字を入力して順番を決める。たとえば、左サイドブロックの承認待ちコンテンツがメインメニューより上だった問題は、メインメニューに「1」を、承認待ちコンテンツに「2」を入力すれば解決する。ただ、ほかにもログインなどのブロックがあるので、通して1から4まで番号を振ってしまおう(図7)。ブロックの場所を移動しながら番号を振るとレイアウトが崩れることがあるが、慌てずに管理画面とページを細かく行き来しながら調整していこう。

右サイドブロックも同様だ。もっとも重要で頻繁にアクセスされると思われるものから順番に並べていく。「本日のトップニュース」をトップに、「最新ニュース記事」「オンライン状況」「投票」「最近の登録ユーザ」「検索ブロック」という順番なら使いやすい。

図6 ブロックを編集した後のトップページ



図7 ブロックの順番を調整

ブロック管理	ブロックの説明	タイトル	表示サイド	並び順	表示 / 非表示	管理
ユーザ専用ブロック			サイドブロッカー左	1	はい	編集
ログインブロック			サイドブロッカー左	2	はい	編集
承認待ちコンテンツブロック			サイドブロッカー左	4	はい	編集
メインメニューブロック			サイドブロッカー左	3	はい	編集

「投稿数ランキング」は営業部のイントラではあまり必要でないし、「ニューズピック」は今のところまだ使わないので「表示・非表示」で「いいえ」を選択して消してしまおう。また、「フォーラムでの最近の投稿」は、自分の書き込みに対する返信のチェックがあるので、左に移動したほうがいいようだ。最後に「送信」ボタンを押せば完了だ。

どうだろう、かなり整理されてきて、やっと使える段階になってきたのではないだろうか(図8)。このようにコンテンツのデザインは、1つ1つロジカルに考えながら構築していけば、結果として「見栄えのするページ」ができあがっていく。良質のサイトを作るに欠かせないプロセスだと理解してほしい。

## コミュニケーションは 対話から

サイトの骨組みが整ってきたので、いよいよユーザーを加入させて情報交換をするための準備に入ろう。先ほどモジュール管理の中で、「フォーラム」をインストールした。フォーラムとは、いわゆる会議室、掲示板、BBSと呼ばれるもので、テーマごとに掲示

板を複数設置できるのが特徴だ。ここではフォーラムの設定をして、メンバーが記事を書き込める環境を構築していく。

まず初めにすることは、フォーラムのテーマ(カテゴリ)を決めることだ。「管理メニュー」を開き、「XoopsBB」の文字が刻まれたバナー「フォーラム」のメニューから「カテゴリの追加」を選択しよう。「新規カテゴリの作成」というフィールドが表示されるので名前を付けよう。まずは「一般的な連絡」という感じで大雑把なくくりを作るのがベターだ。

カテゴリを作れたら、今度はフォーラムメニューから「フォーラムの追加」を選択する。「新規フォーラムの作成」というフォームが登場する。これは要するに会議室の名前である。初めてのフォーラムということで、あまり堅苦しいのも問題だということで「雑談」などしてみる。「フォーラムの説明」は、手抜きせずしっかり書こう。コミュニティーサイトにおいて、こういったガイダンス的な文章(インストラクションコンテンツという)は、サイトの活性化のために非常に重要な役割を果たすのだ。他の項目は、とりあえずこのままでいいだろう。「新規フォーラムの作成」をクリックするとフォーラムが立ち上がる(図9)。

実際にフォーラムを利用するにはトップ

ページの左側に設置した「メインメニュー」の中にある「フォーラム」を選択する。先ほど作成したカテゴリ「一般的な連絡」とフォーラム「雑談」が表示される。フォーラム名をクリックして現れた画面で「新規スレッド作成画面へ」ボタンをクリックすれば、投稿フォームが表示される(図10)。

投稿フォームでは、一般的な掲示板と同じように「題名」と「メッセージ」を入力する。Xoopsは投稿に関する機能が非常に豊富で、「メッセージアイコン」をタイトルに付加したり、メッセージにURLや画像を添付するボタンや、文字の大きさ、色、装飾などを設定することができる。メッセージフォームの下に並ぶ顔アイコンをクリックすれば「顔文字」が挿入される。これは画面に表示される際、ちゃんと顔文字になっている。メッセージを入力すれば、あとは「送信」ボタンをクリックすれば完了だ。

## メンバーの登録と アクセス権限の設定

さあ、それでは他のメンバーを招集する前に、管理者以外のアカウントを作っちゃんと動作するか試してみよう。

おっとその前に、ユーザーがアカウント

図8 情報デザインがほどこされたトップページ



図9 「雑談」フォーラムを追加した



を登録する際にはXoopsがメールでアカウント登録の通知をするので、Xoopsが使用するメールサーバーの設定をしておかなければいけない。設定ファイルは、C:\%WINNT%\php.ini( 98 / Meの場合にはC:\%windows%\php.ini )だ。メモ帳などのテキストエディターで開き、以下の部分を自分がいつも使っているメールサーバーに変更する。一部のISPでは使えない場合もあるので、その場合は社内LANの管理者に相談しよう。

[mail function]

; For Win32 only.

SMTP = <ここをメール送信サーバーに変更>

; For Win32 only.

sendmail\_from = <ここを自分のメールアドレスに変更>

ログアウトして、一度Apacheを再起動してから、トップページの「新規登録」をクリックする。「ユーザー名」と「メールアドレス」そして「パスワード」を設定すればすぐにアカウントができるので、ログインしてフォーラムに書き込みをしてみよう。

.....しかし.....書き込めない! 多くのユーザーがつまづく部分だが、実はインストール後の状態では、すべてのログインユーザーの書き込みは制限されているのである(先ほど書き込んだのは管理者でログインしていたからできたのだ)。ユーザーがフォーラムに書き込めるようにするには、管理者がユーザーに書き込み権限を与える必要があるのだ。

管理者でログインし直して、管理メニューの「システム管理」から「グループ管理」を選択しよう。「ユーザグループの編集」からRegistered Usersの「編集」ボタンをクリックしよう。これが一般の登録ユーザーの権限を定義するグループだ。編集画面で操作する必要があるのは「モジュールアクセス権限」と「ブロックアクセス権限」である。両方ともすべての項目にチェックを入れよう。ただし、モジュールアクセス権限の「登録ユーザー一覧」では、すべての

参加者が見えてしまうので、もし会社外の人も参加するなど特殊な事情がある場合は権限を与えないほうがいいかもしれない。些細なことだが、情報流出には十分な注意が必要なのだ。なお、この際、「管理者権限」だけは絶対にチェックを入れないように注意したい。

どうだろうか? これで新しく作ったユーザーもフォーラムに参加できるようになったはずだ。管理者が書き込んだスレッドを開いて「reply」ボタンを押してコメントを書き込んでみよう。これで掲示板ベースのコミュニケーションがスタートできる。早速サイトのURLをメンバーに教えて運用をスタートしよう。

### 実践型コミュニティサイトを 目指すぞ!

今回はXoopsの基本設定とフォーラム機能についてざっと説明した。機能だけでなくコンテンツデザインの要素を踏まえて紹介したので、今後のサイト構築のイメージが膨らんできたのではないだろうか。

これからメンバーを集めてサイトを運営し始めると、想像もしなかったような問題やアイデアが生まれてくるようになる。そういった「ハプニング」に適切に対応するために、初めに「こんなサイトを作る」ということをじっくりイメージすることがとても

重要だ。たとえば今回、「自分に関する情報や操作系は左側に集める」というポリシーを決めた。右サイドの「頻繁に見る情報を上に並べる」というポリシーもそうだ。これだけでも、今後のコンテンツ展開に大きな指針を与えられることになるのである。

次回からは、参加ユーザーの管理ポリシーや、より実用的な機能の運用について説明していきたい。

筆者プロフィール

増田"maskin"真樹

フリージャーナリスト / 情報デザイナー。1999年米国のシリコンバレーにてベンチャー企業の立ち上げに参加。帰国後もネットエイジ( <http://www.netage.co.jp/> )や関心空間などで新規事業の立ち上げに従事する。現在、関心空間ポータル( <http://www.kanshin.jp/> )のウェブマスターおよび「オンライン・コミュニティ・デザイン・ニュース」( <http://www.kanshin.jp/portal/ocdn/> )の編集長を兼任。

Blogは<http://www.metamix.com/>

### 作ったCMSサイトを 公開中!!

この連載で構築したXoopsのサイトを公開しています。自由に参加できるので、CMSサイト構築に関する話題を話し合ったり、連載の内容でうまくいかなかったことを質問したりして活用してください!!

(協力: MyWebJapan)

URL <http://test.mywebjapan.com/xoops>



図10 スレッドを追加



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)